

趣旨説明

低頻度巨大災害を考える

日本学術会議連携会員
防災学術連携体運営幹事
和田 章

地球は生きている 我々は地球に生きている



(写真特集：時事通信社ホームページより)

地球の半径	6371km
エベレスト山	8.848km
積乱雲の高さ ジャンボジェット	10km
プレートの厚さ 海洋	5 - 7 km
大陸	30-100km
震源地の深さ	10km-50km
ブルジュハリファ	828m
本四架橋	1998m

低頻度巨大な自然の災い

- 自然の猛威：過去に起きたことは、これからも起こる
- 世界で起こることは、日本でも起こりうる
- 日本には急峻な地形が多く、地震・台風が多い
- ある処で、極めて稀でも、日本全国では良くあること

人々の欲と変わる社会



谷謙二研究室
(埼玉大学)

- 豊かに、楽しく、便利に、効率よく
- 電気・通信、高速鉄道、物流網、上下水
- 人々の欲望と文明の進展、**変わる社会**

ある地点では、稀に起こる自然の災い
社会は、この長い間に変わってしまう
未経験の大災害が起こりうる

各学会から18の発表 と 質疑討論